

知ってほしい 赤十字奉仕団の活動



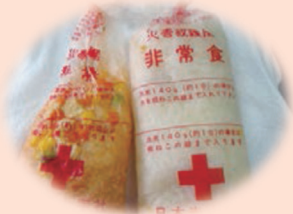
日本赤十字社富士見町分区 富士見町赤十字奉仕団（住民福祉課社会福祉係 ☎62-9144）

赤十字奉仕団をご存知ですか？赤十字奉仕団とは、赤十字の「苦しんでいる人を救いたい」という人道的精神のもと、地域で活動しているボランティア団体です。そんな赤十字奉仕団の活動をご紹介します。

●災害時の炊き出しの普及

赤十字の炊き出しの特徴は、「災害用包装食袋」を使った炊き出しです。これは、食器や箸を使わずに食べられ、最小限の材料で炊き出しできる、災害時の状況を配慮したのとなっています。

赤十字奉仕団では、この「災害用包装食袋」を使った炊き出しを、町総合防災訓練、町生活展、各区・集落組合で行い、炊き出し方法の普及をしています。



●災害義援金の募集活動

日本各地で起こる災害により被災された方々を支援するため、義援金の募金活動を行っています。

活動時は、青少年赤十字加盟校である、富士見中学校の生徒とともに活動しています。



●救急法講習会の開催

心臓が停止すると、4分以内に脳に障害が発生します。放置しておけば死亡するような傷病者でも、現場で直ちに心肺蘇生が実施されれば、救命されることがあります。

救急法講習会では、万が一の時のために、心肺蘇生法やAEDの使用方法、けがの応急手当などを学びます。赤十字奉仕団では、この講習会を年3回開催しています。



子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で ～子どもの場所から～

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

「子育てという営み」

先日、ある行政の方と子育てについてお話する機会がありました。その方は男性で、お子様たちは皆さん、既に成人され独立されています。その方が「今だって、自分の子育てがよかったかなんてわからないよ」とおっしゃったのが、とても心に残りました。論理的思考の傾向が強いと言われる男性の口から、わからない、という言葉が出たのが意外だったからです。

子育てという営みの特徴がここによく表れていると思います。自分が一生懸命取り組んでも、それが果たして正解なのかどうかはすぐにわからないことが子育てにはたくさんあります。正解を求めて育児本を読んだり、専門家の講演会を聴いたり、先輩ママに相談したりして、試行錯誤を繰り返しますが、結局のところ正解はどこにあるのか、すぐにはわかりません。

生きるための基本である、「食べる」「寝る」「出す（排泄）」を保障することだけでも、すんなりいかず、それでも毎日とにかく繰り返さなければならず、頭も心もフル回転で動かし続けても、成果があるようなないような状態、まさに忍耐。子どもが幸せそうに毎日を暮らしていれば「これで良かったのかなあ」と思い、でもそうでなければまた手探りです。

そんな感覚的な言葉でしか表せないのが、子育てだと思います。サクサクと処理できず、悩みながら、愚痴りながら、整理したくてもできないまま、それでも目の前の命と毎日向き合うことから逃げない、それだけは守る。そんな風にして育てているうちに気が付いたら、子どもは大きくなっていて、その時に我が子が自分はそこそこ幸せだ、と感じられていればよし、そんなものなのかもしれません。

子育てを支えるということは、子どもを育てることと同じ、論理的に解決できないこともたくさんある、という前提で、親の傍で、とにかく親が目の前の子どもから逃げないですむように、まずは親を温かく受け入れることから始まります。



▲ゆめひろばで開催されたイベント「てととと広場」で、自作のストラックアウトでお客様を集める小学生と遊びにきた小学生。学校は違っても子ども同士楽しいことを共有できる空間です。